週刊
新つるおか
NO.２３２５
2022.12.4
編集発行
日本共産党鶴岡市議団
鶴岡市美原町16-5
電話22－3313

無料生活相談所
加藤鉱一
宝徳仲田56
64－3941
菅井　巌
中楯96
33－0534
坂本昌栄
稲生2-33-47
24－5993
長谷川　剛
日枝坂本43-10
41－9148

保険証の原則廃止撤回を求める

共産党市議団、草島議員と意見書案4件提出

鶴岡市議会12月定例会は、11月29日開会しました。

市民の請願提出はありませんでした。

陳情は1件です。

「庄内交通湯野浜線・車両モハ3の保存」に関する陳情で、旧善宝寺鉄道記念館に唯一保存している車両を修繕し、後世に歴史を伝えていただきたいという内容です。

議員提出の意見書案は4件で、日本共産党市議団が草島進一議員と提出しました。

①「マイナンバーカード取得義務化につながる『健康保険証の原則廃止』と『マイナンバーカードの保険証利用等に係るシステム導入義務化』の撤回を求める意見書案」は、カードの取得は任意であり、取得強制につながる「健康保険証の原則廃止」の撤回を求めています。

②「介護保健制度の改善を求める意見書案」は、利用料の引き上げや要介護1、2の保険はずし、ケアプランの有料化、福祉用具の貸与から購入への変更などを行わないことを求めています。

③「18歳までの医療費無料化を求める意見書案」は、制度の早期創設と、自治体への減額措置（ペナルティ）の完全廃止を求めています。

④「物価高騰に見合う年金額引き上げを求める意見書案」は、年金が6月支給分から0・4％削減され、年金改定ルールを見直し、物価上昇率に基づいて、増額改定を求めています。

風力発電も計画に記載を

第2回鶴岡市景観審議会

令和4年度第2回鶴岡市景観審議会が、11月18日に開かれ、鶴岡市景観計画の改定について協議されました。

景観まちづくりの課題として、

（ア）大規模再生可能エネルギー発電施設と景観の調和。

大規模な太陽光発電や風力発電施設等は、景観保全との兼合いを予め考えておくことが重要であること。

（イ）手向地区と松ケ岡地区における歴史的文化景観の保全。

（ウ）鶴岡らしさを表す、通りや内川の眺めの継承。

の3点をあげています。

景観計画では、大規模建築物の景観に関する制限で、

①建築物で、高さ13ｍを超えるもの、または建築面積500㎡を超えるもの、

②工作物で高さ15ｍを超えるもの

③太陽光発電関連施設については、パネル面積の合計が500㎡を超えるものに対して、届出対象行為としています。

委員からは、「風力発電が抱えている課題が工作物に入っているのか。

風力発電は制限とルールを特出ししたほうがいいのではないか。

工作物には高さの制限と届けしか記載がない」という意見が出されました。

事務局は、「県では、再生エネルギーの設置には住民合意、市ではガイドラインを改正した。

景観計画では位置付けていないが、運用で規制できるものと考えている。

景観計画に特出しすることは考えていない」と答弁がありました。

しかし、「課題としてうたっておきながら、何も記載がないのは違和感がある。

市として、考えを明示されたらいい。

県と市の考えを全面に出さないと市民からも誤解を受ける」と再度の意見が出されました。

答弁では、「手続きの明示についても記載したい」と述べました。

別の委員からは、「再生エネルギーは重要な課題だが、風力発電は日本で事業起こしてもうまくいかないという人もいる。

景観を阻害するのは間違いない」といった意見も出されました。

庄内に発達障がい・ひきこもり支援拠点を

庄内地域議員協議会が18日行われ、庄内の発達障害者と引きこもりの方の支援の強化について、取り上げました。

県には、それぞれの中核施設として、①県発達障害者支援センター（上山市）と、②県ひきこもり自立支援センター「すだち」（山形市）が設置されていますが、庄内の人にはほとんど利用されていません。（令和3年度相談支援利用者中の庄内在住者は、①2・9％、②同0％）。

庄内4市町で構成する庄内開発協議会からも、発達障害者支援の取り組みの強化などのために、県立こころの医療センターと連携する「庄内小児精神福祉医療センター」（仮称）を設置することがかねてから提案されています。

センター設置をめざしつつ、庄内での「出前相談」、研修会、地域ネットワーク構築などを直ちに実施することを求めました。

（県議　関　徹）

桜井昌司さん無罪への記録上映

国民救援会鶴岡支部

日本国民救援会鶴岡支部は10日(土)午後1時30分から、第40回定期総会を市勤労者会館で開きます。

総会に先立ち、布川事件元被告で、えん罪から無罪を勝ち取った桜井昌司さんの闘いの記録を上映します。

JCP鶴岡地区ＨＰ

「報復」動機に「あら探し」は倫理に反する

日本共産党市議団が議長に弁明書提出

日本共産党市議団は、4人に対する市議会政治倫理審査会の「違反する行為は存する」との結論が22日届けられたことから、菅原一浩議長に対し29日、「弁明書」を提出しました。

弁明書の要旨は次の通りです。

条例を逸脱

事務局の助言

①「条例」は、議員個人の行為を対象とし、会派の活動を対象としていないことから、条例の逸脱である。

②「月額4万円の基本料金が按分されていない」、「国会議員、県議会議員の名前・連絡先の記載が按分されていない」の2点の指摘は、5月に設置された政務活動費検討会議の場で、初めて指摘された。

これまで手引きに沿って、会派の自主的な判断が尊重され、監査の指摘や市民から疑問の声は一度もなく、歴代議長が判を押してきた。

「新つるおか」は、業者の編集委託料請求額と印刷費に区分けし、按分を印刷費のみとしたのは、議会事務局の助言に基づく。

指摘を受け按分

③会派では、今回の指摘を受け、広報費全体を按分すべきと判断し、9月27日に議長に報告した。

「名前・連絡先」は、市民の生活相談、市政要求を実現する上で活用されてきたが、誤解を生まないよう5月22日号から削除した。

④この間の検討は、他市議会での事例や、政務活動費返還請求の事例、党中央との相談などに時間を要したもの。

⑤審査会では、「4か月以上も放置したことは不誠実」、「現在は削除していることから、問題があったことを自ら認めており、手引きに沿わない行為である」との意見だが、「逆さまの論理」で、「逆は必ずしも真ならず」である。

政党活動の重要性

⑥手引きは、広報費の使途基準で、「留意点等」として「政党活動」、「支出できない経費の主な例」として「政党又は後援会が発行する広報費、PR広報の発行・配布に要する経費」となっており、審査の指摘は該当しない。

2012（平成24）年の法改正で、「政務調査費」から「政務活動費」になり、政党活動の重要性を法律が認めたと解されている。

⑦2月の新政クラブの5議員が、政務活動費ガソリン代の私的流用で政倫審違反が認定され、謝罪や役職辞任を「させられた」ことへの「報復」と受け止めざるを得ない。

審査請求で4人の名前が数回も報道され、議員の名誉感情を侵害し、精神的苦痛を与え、「名誉毀損」となる。

政倫審の「報復」を動機に、他会派の「あら探し」をし、無理矢理「政倫審」にかけるという手法は、倫理に反する。

議会の対立をあおり、市民の議会不信を増幅させた責任は大きい。

新たな使途基準

⑧今後は、広報費の使途基準における政党・選挙活動の原則記載を認めない基準に従い、その際は政務活動費の請求を行わず、適切に対応する。

女性よ、大志をいだこう！

女性センター開設40周年記念講演会

鶴岡市中央公民館女性センター開館40周年記念講演会が27日、中央公民館で開かれました。

講師に坂東眞理子氏（昭和女子大学理事長・総長）を迎え、Woman Be Ambitious！女性よ、大志をいだこう！と題し、講演が行われました。

人生100年と言われるこの時代に、女性自身が変わらなければならない。

この40年間で女子の地位は向上したかの様に見えるが、世界的には146か国中116位と、まだまだ及んでいない。

女性の中に「どうせ女性だから」「もう年だから」と、無意識の偏見をいだいている。

女性自身が自覚し、呪いから解放されることが重要であり、自己改革をすすめ、挑戦することをやめないことである。

家事や育児においても変化し続けているが、職場や学習に至るすべてが変化している。

無形資産や有形資産、健康・活動資産、生産性資産、変身資産等を大いに生かし、自分らしく生きることが大切である。

50歳（人生後半期）を新たなスタートと捉え、人生前半の栄光（失敗）を引きずらず、無償や有償にかかわらず仕事で社会に関わる。

本当に好きなこと・得意なこと、そして何より若者や他者に対し、サム・マネー（若い人と競争するのではなく、お金や知識、スキルを投資）を行う。

他者にしがみ付かず、一人で過ごす時間を楽しみ、過大な期待をせずに過ごすことである。

高齢者の品格を、これまでの“あいうえお”（諦める）（いじわる）（鬱）（遠慮）（落ちこぼれ）でなく、“かきくけこ”（感動・感謝）（機嫌よく）（工夫）（健康）（貢献・交流）で、自分の利益だけを追求せず、自分の未熟な部分を成長させよう。

人生後半の3カ条として、

①新しいことを始めることで、新たな「新友」を作るべし。

②ベストでなく、ベターを目指す（ベター・サン・ナッシング、ゼロよりもまし）

③「きょうよう」と「きょういく」を持つべし（今日用があること・今日行く所を積極的に自ら作ること）で、Women Be Ambitious！

女性は大志をいだこう！として講演を終えました。

参加者約400人から惜しみない拍手がありましたが、男性も多く参加すれば、男女共同参画がより一層進むのではないかと思いました。

坂本昌栄議員が参加しました。